

2 たばこ

【関連章第3章2】

事例2 「たばこの火種が居室の床に落下し出火した火災」

出火時分 12月 23時ごろ
用途等 共同住宅 防火造 2/0 延 100 m²
防火管理 非該当
被害状況 建物ぼや1棟 毛布、敷布団等焼損
概要

この火災は、共同住宅の2階居室から出火したものです。

出火原因は、居住者がたばこを吸いながら外出の準備をした際に、たばこの火種が落ちたことに気付かずに外出したため、時間の経過とともに出火したものです。

出火した居室と同じ階の居住者は焦げくさい臭気に気付き、少し様子を窺っていたところ、臭気が強くなってきたので、外を確認すると、白煙を確認したため、自身の携帯電話で119番通報を実施しています。なお、出火した居室は施錠されていたため、初期消火は実施できませんでした。

教訓等

この火災は、居住者がたばこを吸いながら外出の準備等の行動を取っていたため、気付かないうちにたばこの火種が落下し出火しています。

この火災のように火種が落下したことに気付かずにいた場合、そのまま外出や就寝した後に、出火する危険性があります。

たばこの火種は可燃物に接触してもすぐには火災とはならず、長時間炎が立ち上がらない燃焼を継続するケースが多く、その際に発生する煙や一酸化炭素を吸い込むことにより、身体が奪われ避難や初期消火ができなくなる恐れもあります。

喫煙するときは、灰皿の近くや決められた場所で喫煙し、周囲の整理整頓をするとともに、火種を落とさないよう、くわえたばこをしながらの作業等は絶対にしないようにしましょう。

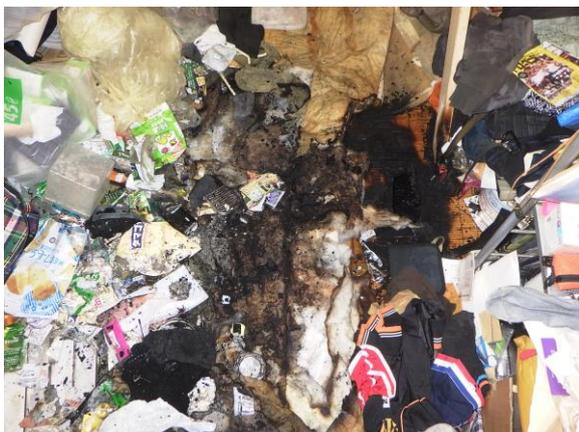


写真 2-3 出火室の焼損状況



写真 2-4 吸い殻の処理状況